

伊勢志摩版

やっぱりおいしい
ミエライス

みだか
うた

(夜、ポケットからペンギン柄のハンカチを出し、洗濯機へ入れて)
子 ペンギン君 今日もありがと レタスけ
う まつね・ゆいか(7) いなべ市大 吹上、姐
たけの

浜辺の海藻 押し葉アートに

東京の栗又さん 鳥羽・海の博物館で作品展

企業向けのアート制作を手がける「フォーアーツデザイン」(東京都)の栗又弥江子社長(63)の海藻作品展が鳥羽市の「海の博物館」で開かれている。鳥羽や千葉県の海藻を「押し葉」のようにあしらった約50点を展示し、海洋資源の多様な可能性を示している。来年1月まで。

(大見亜蘭)

栗又さんは、空間の個性やブランドの世界観に合わせ、千葉のアトリエを拠点としたアート制作するコミッションアーティストとして、海と海藻をテーマにした作品制作にも取り組む。今回出展しているのは、ダイバーとしての顔もあり、千葉のアトリエを拠点として、海と海藻をテーマにした作品制作にも取り組む。今回出展しているのは、

浜辺に打ち上げられた海藻を素材にした「海藻おしは」が中心。冷凍して塩抜きした海藻を水と紙が入ったトレイの中で広げ、約10



④ 海藻を使ったアート作品を出展している栗又さん

⑤ 栗又さんが手がけた「海藻おしは」

⑥ いずれも鳥羽市の海の博物館で

漁具と組み合わせた立体表現も

「の重りを乗せて接着させる。制作には1週間ほどかかる。」
素材には、鳥羽や千葉の浜で採取した「アオサ」や「メカブ」といった30種類以上の海藻を使った。花々をちりばめたようなかわいらしい作品から、独特の造形で神秘的な雰囲気漂わせるものまで幅広い表現を楽しむ。鳥羽特産の海藻「サガラメ」を使ったダイナミックな押し葉もあり、豊かな自然を感じさせる。
会場には海藻と漁具を組み合わせた立体作品のほか、ガラス製の浮き球「ピン玉」も展示。海と向き合って生活してきた人々の暮らしにも触れられる。
「どこにでも、何にでも美しいものがある」と語る栗又さん。「海藻の種類の多さを『発見』してほしい」と話し、「素晴らしい海藻に囲まれた国に住んでいることを知って」と来場を呼びかけた。

最後の「加茂牛給食」味わって

鉄塔で救助訓練に取り組む消防隊員ら 志摩市